

2023年度 日本工学院専門学校											
コンサート・イベント科 1年次											
音楽基礎2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	宮澤 由衣			実務 経験	有	職種	ピアニスト				
担当教員紹介											
ピアニストとして、TV、ラジオ、ステージ、レコーディングなどで活動しつつ、日本工学院専門学校のミュージックカレッジの講師として、音楽基礎を10年以上担当している。											
授業概要											
これから音楽業界に携わっていく学生たちが楽曲の構造に対し関心を持つことに重点を置く。楽曲制作者の意図を汲み取れるよう楽譜の読み方を理解し、音符が示すものを理解することによって音楽に対する関心を深めていく。アーティストが用いるコードにどのような意味があるかを理解することで、よりアーティストの意思を感じ取ることができるようになる。また5線紙のノートに実際に記述することにより、譜面を手書きすることに対する抵抗をなくす。講義内では実際に鍵盤楽器を奏でて、譜面の中で示される強弱や奏法について、まずは感覚的に捉えられるようにする。少しでも音楽の成立について理解ができるよう、音楽史についても触れていく。											
到達目標											
楽器や音源の成り立ちに対し、学生たちが興味・関心を持てるようになることを到達目標とする。これにより関わって行くアーティストの楽曲を製作する上での意図を汲み取ることができ、よりアーティストに寄り添うことができる裏方スタッフの育成を目指す。音楽への関わり方は学生それぞれのためどうしても音楽に対する理解度もまばらになってしまいがちだが、業界で働く上で最低限抑えるべきポイントを理解させることにより、どの学生であっても楽曲の構成について向き合うことが出来るようになる。観て学んだ音符や奏法、演奏する上での指示を鍵盤楽器の実演で示すことにより、感覚的に譜面の指示を理解できるようになる。											
授業方法											
講義の内容としては毎回テーマについて説明をするところから入り、そのテーマに沿って説明を行っていく。教科書などは用意せず、その都度プリントを配布することで補足説明をより分かりやすく理解できるようにしていく。習得しておくべき知識であるため、同じ内容を何度も反復して復習できるように、授業の内容を設定していく。疑問や理解できなかった部分は個別対応ができるよう、講義内で時間を設けてなるべく知識を頭に入れられる環境づくりを行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題 70% 試験と課題を総合的に評価する 小テスト 10% 授業内容の理解度を確認するために実施する レポート 10% 授業内容の理解度を確認するために実施する 平常点 10% 瀬極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
毎回プリントを配布することになるため定期テストの範囲はわかりやすいが、プリントを紛失してしまうと試験前の対策などに影響が出る可能性がある。また5線紙を利用するためプリントの他にも毎回の講義で紙の資料が増えていくため、配布資料と板書ノートの管理は細心の注意を払ってほしい。また、過去の講義で教えた事柄が次の講義では当たり前の共通認識として講義を展開するため、もし理解し切れていない部分があった場合にはその日のうちに確認をし、次の講義に備えて欲しい。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書は設定なし。学生には5線紙のノートを持参してもらい、その回のテーマをプリントで補足しながら説明する											
回数	授業計画										
第1回	前期に学んだ内容を再確認（1） プリントを配布してこれまで学んだ事を再確認する										
第2回	前期に学んだ内容を再確認（2） 前期のテストを実施し、自己採点で弱点を見つける										
第3回	譜面から読み取る（1） 手書き譜面から記号や演奏指示を見つけ出し、楽曲制作者の意図を汲む										
第4回	譜面から読み取る（2） 実際にはどのような意図があったかを答え合わせしながら解説する										
第5回	鍵盤楽器と音 鍵盤の位置と音を一致させ、音階を理解する										

2023年度 日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科 1年次	
音楽基礎2	
第6回	音程がもたらす効果 鍵盤でKEYを変えながら演奏をし、それぞれどのような違いがあるかを検証する
第7回	スケール メジャースケールとマイナースケールを理解する
第8回	コードの活用 楽曲製作者が実践している作曲する上でのコード活用の仕方
第9回	リスニング（1） 楽曲を聞いて、これまで学んだ記号や演奏指示を書き出してみる
第10回	リスニング（2） 解説をしながら聞き取りが正しかったかどうかの答え合わせをする
第11回	リズムについて（1） ドラム音源を使用しながらリズムを聞き取ってみる
第12回	リズムについて（2） 解説をしながら聞き取りが正しかったかどうかの答え合わせをする
第13回	後期に学んだ事の総復習（1） テスト方式でプリント課題を実施し、弱点を見つける
第14回	後期に学んだ事の総復習（2） 全体のまとめ、前回の講義で発見した弱点を個別対応で解決する
第15回	全体の総まとめ 1年間学んできたことのまとめ